

2011.10.30 Sun

依光インターン レポート

同志社大学政策学部

伊藤 優

1. 「海」

2011年10月14、15日、初めて高知の地を踏み、依光県会議員のお世話の元、高知市・香美市周辺を案内して頂いた。2日という短い時間であったが、その際に感じたこと、また上記の高知をイメージする漢字として「海」を選んだ理由について執筆する。

結論から言うと、初めて高知県を訪れたことで、イメージは大いに変わった。というのも、訪れる以前は、坂本龍馬をはじめとする幕末の維新志士しか連想しなかったのである。実際、高知に14日早朝に着いたときも、坂本龍馬、武市半平太、中岡慎太郎の像が出迎えてくれた。その後、香美市のアンパンマンミュージアム、龍河洞を、次の日は高知市内の龍馬にゆかりの地を案内して頂いた。

「海」という感じを選んだ理由は、至る所で海を感じられるものを見つけたからである。最初に感じたのは、物産である。名産の鰹をはじめとし、土産物、スーパー、飲食店には多くの水産が並んでいた。個人的に、もっとも印象的だったのは「ひろめ市場」で高知を代表するような活気のある場所のように感じられた。もう一つ「海」を感じたのは、やはり龍馬である。なぜか私は、桂浜のように広大な海原を眺められる場所では、海援隊のようなグローバル志向の“坂本龍馬”が連想され、その歴史を龍馬記念館で見ることができた。この二つが、それを感じた理由であり、「海」そのものが高知の財産ではないかと思った。

2. 上述のように、香美市の観光地であるアンパンマンミュージアムと龍河洞には14日に訪れた。そこで、具体的に以下の2点に注目し、それに対する解決案を提示する。

まず1点目は、アクセスである。魅力的な観光地ではあるものの、交通の便が悪く、また双方の距離も近くはなかった。故に、香美市の観光に際しては、自動車が不可欠のように思われた。2点目は、龍河洞の土産屋である。龍河洞と土産物の品、観光地としての魅力や物資は整っているのに、どこことなく寂れて休日にも関わらず人気を感じなかった。以上を分析すると、まず1点目のアクセスを抜本的に改善するには、交通インフラの改善が必要になってくるが、現地の分析が足りないうえに、経済性も考慮すると大幅な投資が考えられるので、現実的な改善策にはならない。2点目に関しては、龍河洞とアンパンマンミュージアムより以前に、香美市自体に観光客を集める策が必要ではないか。

そこで、具体的なプランを提示する。まず、香美市の玄関口(?)の土佐山田駅をアンパンマン一色にする。文字通り、駅の細部までアンパンマンキャラクターで彩り注目を集め、子供連れ観光客層を狙う。そして、駅前発着の香美市を半日程で観光できるパ

スツアーを企画することで、効率よく香美市を周遊して頂く。さらに、市内の物産店では、やなせたかし氏が作られた龍河洞のゆるキャラをはじめ、坂本龍馬など高知の名産を模した作品の発注をやなせ氏に依頼し、そのキャラ商品を売り込む。また、土地限定品も設置し、その場だけの商品を企画することで、消費のシステムを作る。

以上が、私の考えた香美市の観光活性化案である。

高知を観光して感じた高知県のイメージを感じ一文字で表現し、その理由を A4 一枚で

「温」

高知を漢字一文字で表すと、「温」です。土地からも人からも、温かさを感じました。日曜一での人と人との交流、桂浜で見た一面に広がる大きな海、お世話してくださった依光さんや学生の皆さん。全てに「温かさ」を私は感じました。全てを受け入れてくれる温かさが、高知の地と人の根本にあるのではないかと思います。やはり、あの海に見守られているからでしょうか。あの海を見たときは龍馬の心を考えずにはいられませんでした。海の広さに圧倒され、時を忘れ自分を忘れ、小さいことなんてどうでもいいような優しい気持ちになり、パワーが漲るような気にもなりました。龍馬もきっと、海に見守られながら励まされながら、自分の心を養っていったのだと海を眺めながら物思いにふける彼の姿を連想しました。勇ましく波を立たせ、そんな厳しさも兼ね備えている高知の海からは、龍馬だけでなく高知の全ての人々を、今までもこれからも静かに見守っていく温かさを感じます。依光さんがおっしゃっていた「男性を支える高知の女性の気質」も、ひょっとするとこの海の賜なのかなとも思います。

高知という地を訪れたことで改めて、土地・環境と、そこで暮らす人々との関係は切っても切り離せないものだと思えました。だからこそ、「地域」というものを大事にしなければならぬとも思いました。依光さんや高知工科大学の皆さんをはじめ、高知の方々自分たちが暮らす土地を大切にしていることがとても感じられます。

人々が自分たちの地域を愛することで、この「温」は生まれるのではないかと私は思います。高知では、みんなが高知という場所を愛し、皆が高知県民であることを誇りに思っている。そう感じました。父の転勤によって一つの地に長く暮らすことができなかった私には、どこか一つの地への大きな愛着というものはありません。皆さんがとても羨ましく感じられます。ですが、色々な場所に触れたきた分、私には私にしかできないこともあるのではないかと感じました。これまで触れてきた色々な場所、これから触れる色々な場所、それら地域の魅力を学び、地域と地域の魅力をつなげていくことが私の役目なのではないかと。私は高知を訪れたことで、改めて日本の魅力というものを考えることができました。高知をはじめ、日本には素晴らしい魅力が溢れています。これから日本商工会議所で働く上で、そうした魅力を国内外に発信しつなげていけるよう、日々精進していきたいと強く思いました。

高知を訪れたことで、今まで知らなかったことを多く学ぶことができました。学ばせていただいたことはとても大きな糧となりました。依光さんをはじめ、高知の皆さんには本当に感謝の気持ちでいっぱいです。これからも学ばせてください。

本当に、お世話になりました。

香美市の観光地である龍河洞とアンパンマンミュージアムにまたお客さんがお金を使ってくれるような案を具体的に。

龍河洞もアンパンマンミュージアムも、大変素晴らしいものでした！

アンパンマンミュージアムは普通の博物館・美術館と違って、香美にしかないもので、できないものです。日本だけでなく世界に1つしかない誇りです。龍河洞には縄文人が暮らしていたという歴史があり、足を運ばないと分からない感動があることを知りました。どちらの観光地も、もっと世に広まるべきだし、知らない人がいるのはとても勿体ないことだと心から思います。

1つ思ったのは、素晴らしい場所であるのに何か寂しさを感じました。「観光地」という雰囲気をもっと形から作り上げることも1つの手なのかなとも思います。色々な観光地を思い出したときに思うのは、周りが賑わっていることです。色々なお店だったり、何かしらその観光地に連動したものが大半です。龍河洞、アンパンマンミュージアムはそれ1つがポツンという感じがしました。ただ、龍河洞とアンパンマンミュージアムでは状況が違います。龍河洞は以前よりお客が減り、アンパンマンミュージアムはその反対で多くの人で賑わっていると伺いました。再復興という視点と、もっと栄えることを考える視点で、異なりがあることを学びました。

私の頭ではとても難しくなかなか案が思い浮かばなかったのですが、香美市を、もっともっとアンパンマンの街にするのはどうだろうかと思います。日本の中、高知県の中にありながらも、ここに来ると別世界にいるような気になる。そんな、「アンパンマンテーマパーク」のような雰囲気を市全体で統一するのです。その一つに龍河洞も組み込み、高知県外、四国圏外、日本国内外の人たちが、「香美市」を「まるごと」楽しめる街作りはどうだろうかと思います。